

117 ムラサキガイ

(シオサザナミ科)

兵庫県ランク:A

Soletellina adamsii

環境省ランク:VU

種の概要

房総半島から九州に分布。内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯の砂泥底に深く潜って生息する。殻長120mmになる大型種。殻は長い楕円形で、やや薄くもろい。膨らみは弱い。殻頂は低く、背縁のほぼ中央にあり、殻の後部は前部よりやや細い。殻表は細かい成長線を除き平滑で紫色を呈し、光沢の強いオリーブ色から褐色の殻皮で覆われている。内面も濃い紫色。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○			○	○			○

県内分布

姫路市、たつの市、洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

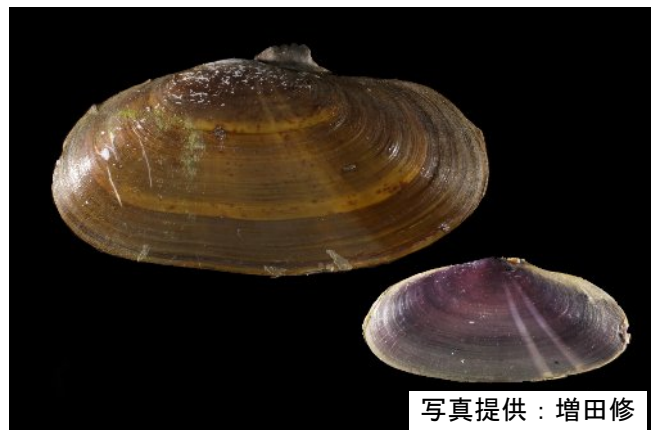
新規追加種。県内で広く確認されるが、ごく一部を除いては希産である。播磨灘では主にマテガイ(貝類要注目種)の生息する細砂干潟周辺で生息し、数十年前は多産していた。今もお高密度に生息する干潟も存在するが、その範囲は極めて狭いことから、環境変化により容易に消滅する可能性が高い。但馬海岸にも分布するが、潮下帯での生息である。本種の近似種で大型になるフジナミガイも生息するが、近年の調査では潮間帯で確認できていないことで本レッドリストから除外した。

保護上の留意点

還元性の低い細砂で構成される潮通しのよい前浜干潟を存続させるために、離岸堤や波戸、消波ブロックなどの設置には十分な配慮を払い、海岸の埋め立て、汚水の流入を防止する。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 川淵千尋